

## 会議録

会議名 (審議会等名)	相模原市南区区民会議		
事務局 (担当課)	南区役所区政策課 電話042-749-2134 (直通)		
開催日時	令和4年11月16日(水) 14時00分～16時00分		
開催場所	南区合同庁舎3階 講堂		
出席者	委員	14人(別紙のとおり)	
	その他		
	事務局	8人(南区長、副区長、他6人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 区長あいさつ</li> <li>3 議題           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 第7期南区区民会議の全体スケジュールについて</li> <li>(2) 「地域活性化のための取組方法の検討」について</li> </ol> </li> <li>4 その他</li> <li>5 閉会</li> </ol>		

## 審議経過

主な内容は、次のとおり。（○は委員、●は事務局の発言）

### 1 開会

### 2 区長あいさつ

菅谷南区長から挨拶を行った。

### 3 議題

#### （1）第7期南区区民会議の全体スケジュールについて

資料に基づき事務局から説明

（質疑なし）

#### （2）地域活性化のための取組方法の検討について

資料に基づき事務局から説明

- 日頃から地域住民の方々と接する機会の多いまちづくり会議選出委員から、アンケート結果について、コメントをいただきたい。（井坂会長）
- 加入率の年齢別の項目について、10代で個別に加入しているとは考えにくく、これは世帯として加入を問うているのか。（田村委員）
- アンケートは、本人について回答いただく形式となっているが、当該項目について単身世帯（個人加入）か、両親等と同居（世帯加入）かなどについて分けて収集はしていない。
- いわゆる地域の電気屋を営んでいるが、地域が発展し人が増えることが商売に大きく影響することから、地域発展のために何かしなければ、私たち商店としては成り立たないという理由もあり、自治会活動等を行ってきた。地域で商売をされていない自治会会員の方目線では少し違う考え方もあると感じる。（田村委員）
- 回覧板に対して誤解がある。回覧用紙の印刷代は、会費を無駄にしているという意見があるが、回覧板あるいは掲示板のチラシの約6割は、市から依頼を受けて実施しているものであり、市への協力を条件に自治会活動推進奨励金を受領している以上、市の依頼を断ることはできず、回覧内容が多くなっているのが現状である。

市自治会連合会の会議においても同様の話題はあがっており、市で依頼を減らさない限り自治会の負担は減らない状況であること、市の依頼に対して自治会が協力しているという状況を市がアピールしない限り、住民の誤解が解けることはないと考える。

また、「活動内容が分からない」については、各自治会が自分の自治会の会員と自治会が目指していることを、どのように共有するかがポイントだと思う。

その意味では、自治会の会員は全員が主人公であること、自分が主人公にもなれる、周りの人も主人公になる、だからお互いに支え合っているという意識が皆さんに広がれば、自治会に対する理解が進むと考えており、そうした共有の在り方の工夫を各自治会で検討できればと思う。（大木委員）

- ゴミ捨て場に関する成功事例があったが、田舎でないと実現できないと考える。

特に地域で持ち回りなど定期的に場所を変える集積所ではなく、集合住宅など、ごみの量が多く、場所が固定された集積所によっては利用者のゴミ捨て場に対する関心が低い場所もあり、そうした場所に掲示板を設置しても効果はないと考える。

また、「回覧板が嫌だ」という意見については、防災の観点から回覧板をきっかけに近隣住民と関係を築くことが大切だと考える。（黒子委員）

- 回覧板について市からの依頼については一般回覧、自治会発信は特別回覧と、別々に発行することで情報をよりの確に共有している。

活動の周知については、活動対象ごとに関連組織、団体と連携し情報発信をしている。

また、世代によっては時間がないことから、交流の機会が非常に少ないため、会議の議事録を回覧する等、情報の共有に努めている。

行事についても、掲示板と同時に回覧でも発信し、行事参加について会員が自由に選択できるようにしている。

自治会区と行政区（例えば公民館区や学校区）が異なることもあり、市民に分かりやすい行政区の在り方を市には検討いただきたい。（中島（千）委員）

- 地域活性化は自治会だけでは難しく、地域全体で取り組んでいく必要があると考える。

そうしたことから、PTAの代表など各地域の各団体の代表が出席するまちづくり会議を重視すべきであると考え。（穂苅副会長）

- ここまで、実際に自治会活動に深く関わっている各まちづくり会議選出委員から発言をいただいた。ここからは、公募委員の方をはじめとした委員の方に、アンケート結果について率直な意見、感想を発言いただきたい。（井坂会長）

- 自身の自治会加入のきっかけは、ごみ置場を利用しているため、管理を地域と一緒にすべきだという思いからであった。

新しく転入される子育て世帯の入会に注力すべきと考える。

今後長く地域に関わる方々が主体となる活動への仕掛けや仕組みが必要ではと考える。

回覧板については、子育て世代向けの情報が多いイメージがあり、実際に子育てを終えた世帯からは回覧板を理由に脱退の相談を受けている。しかしながら、今後高齢化していくことを考えると、安否確認といった意味も回覧にはあるのではないかと思う。

加えて、自治会の手集金についても、効率が悪く現代に合わないと感じる一方で、対面で唯一お話しができる機会でもあり、一長一短があると感じている。（石森委員）

- アンケート結果の自治会加入率には疑問がある。例えば、大規模なマンションであれば単位自治会を有しているが、そうではないマンションや、アパートでは加入率が非常に低いと感じている。

駅の近くのゴミ捨て場には、住民以外の方のごみのポイ捨てが多く困っていたが、ゴミ捨て場を有料化して地域で集金し必要な時だけ設置できるゴミ捨て場を作ることが対策として有効であった。

自治会の広報誌については、レイアウトやカラー刷りを行うなど工夫をしている。

成功事例については、特性の異なる地域で同じことをしても成功すると思わないため、各地域が地域特性をどう生かして、どのような活動をするのか考えることが必要だと思う。

（渡辺（幸）委員）

- 自治会が何を望んでいるのか、そのためには役員がどういう活動をしないといけないのか、一般の人たちの立場に立って考えることが必要ではないか。

自治会役員が行事以外に集金活動などで住民宅への戸別訪問をきっかけに交流を増やすことや、市の活動とは別に美化活動などを行うことで住民の関心度が上がると思う（増本委員）

- 活動内容が分からないと、加入に不安があると思うので、自治会の活動を見える化するというのはとても大事だと思う。

例えば、多くの素敵な活動をされているので、イラスト等で魅力のある自治体活動としてアピールできれば良いと思う。

会費を払うメリットについては、負担に対してメリットがないという意見と、参加する時間がないという意見は、本質的には同じ意見だと考えられ、活動などの負担を少なく（スリム化）すると同時に、加入のメリットも作り出せると良い。

例えば、ごみの収集場所の管理についても、会員になると管理負担があるが、会員以外もゴミ捨て場を利用できるとなると、会員としてメリットを感じにくいと思う。

また、美化活動をしたときに、自治会の活動と分かる目印があれば、活動をアピールでき

自治会活動の見える化につながるという様に、マイナスを減らすだけではなくて、プラスの活動を見せることで、未加入の方に自治会がより魅力的に映ると思う。（田中委員）

- 未加入の方には、理由があって拒否する人と、意見や理由が特に無く加入していない人に分けることができると思う。

現在、自身が自治会に未加入であるが、勧誘を受けていないことから、加入のきっかけがなく、自治会活動を知る機会もないことが未加入の理由であり、理由があって拒否をしている訳ではない。

イラストを交えた周知があると、若者も興味を持つと思う。

また、相模原市は女子美術大学があるので、自治会のポスター制作や、広報制作の募集を行えば、応募者は一定数いると思う。（横山委員）

- 転入前のご実家暮らしの時など、自治会活動で印象に残っているものはあるか。（井坂会長）
- 実家では、家族で自治会に加入しており、夏休みの公園でのラジオ体操、その後の紙芝居を読むという活動の他、年末に餅つき大会があり毎年参加していた。（横山委員）
- 自身が子育て世代であるが、自治会には加入していない。

P T A活動、子供の習いごとなど、土日はそちらの活動に参加しているため、自治会に加入しても活動に参加する時間がないため、加入していない。

例えば、子育て世代など時間に余裕のない40代くらいまでは、役員をやらなくて良いといった形式であれば、加入への敷居が下がって加入者は増えるのではないか。（渡辺（美）委員）

- 自治会について、今の暮らしの中で、魅力を感じている活動はあるか。（井坂会長）
- 大規模マンションのため、ゴミ捨て場も含め地域の自治会とは関係が希薄であるが、災害時にはお世話になるのだろうと感じている。（渡辺（美）委員）
- 管理組合などの活動があるのか。（井坂会長）
- 管理組合はあり、半数程度が参加していると聞いている。（渡辺（美）委員）
- 自治会活動に携わってきたが、外から見ると活動内容が見えにくいというのはあると思う。現代は高齢者であってもスマホを使いこなしている人が大勢いるため、SNS等を活用し情報を積極的に発信するべきではないか。

受益者とも言うべき住民が、情報を受け取ることで自治会が身近で役立つ組織であると認識するようになるのではないか。

I T活用については、講習会を開いてもいいと思う。（草薙委員）

○ アンケート結果を見ると活動内容がわからない、知り合いがいないという理由が多く、地域でのコミュニケーションが不足しているのではと感じる。

メリットはあるかと聞かれることが多いが、自治会加入にはたくさんメリットがある。しかし、言葉で伝えるのが難しいものが多いと感じており、活動をもっと知ってもらえれば理解して貰えると思う。活動に参加してもらうことでコミュニケーションも増えると思うため参加しやすい活動がより増えるといいと思う。（佐田委員）

○ 自治会費は地区によって違うのか。（井坂会長）

○ 自治会ごとに異なるが、自治会ごとに担っている事業も異なるため、単純に比較することは難しい。（穂苅副会長）

○ 自治会活動については、役員が率先すべきという意見と参加者がより積極的になるべきという意見があったように、様々な論点があったと思う。

また、活動の周知についても、アピールが足りないという意見と、受取手に興味がないため発信してもキャッチしてもらえないという問題があると思う。

ここからは、さらに自由な意見を挙手で求める。（井坂会長）

○ 子育て世代の人たちが将来的に活動の主体を担っていくべきと思うが、その世代に情報が届いていないことが課題と思う。

SNSによる発信についても、モデルケースがあると広がると思う。例えば集金がオンラインでできるなど。

マンションは1世帯として加入数を計算すると思うが、実際の入居者の加入者数を数値として持つことで見える化に活かせるのではないかな。

新規転入者については、管理組合や不動産会社とも連携して加入促進の情報発信をすれば、加入率は上がるのではないかな。（石森委員）

○ 単身世帯の転入者を把握するのも難しいのでは。（井坂会長）

○ 新居には勧誘を行っており加入率は高い。

メリットについては、考え方として自治会活動に馴染まないため、あえて積極的な発信はしていない。加入案内の中で自治会館の無料開放や駐車場の無料開放についても案内をするが加入のメリットという形では伝えていない。

ゴミ捨て場については、カゴやネットは全て自治会で購入している。中にはカゴ1つ5万円近くするものもあるが、申し出があればお渡しできるように予算を設けているほか、ネットは自分で切り分けてもらう代わりに無料で好きなだけ持って帰れるような仕組みを作っている。

転入者への加入促進では、賃貸の場合、管理会社や大家さんと交渉は必ずしており、ゴミ捨て場の設置がないようであれば、自治会に加入頂くことを条件に自治会のゴミ捨て場を使ってもらっている。その際に7割の居住率であれば自治会費用も7割りとする等の交渉をしている。

また、分譲の戸建住宅が数多く建設される場合は必ず、開発業者から事前に話をいただく仕組みであり、加入案内の配布はもちろん、入居者を集めて説明する機会も設けている。

自治会活動のスリム化と見える化というのが非常に大事だと考えており、活動にも都合が悪い場合は参加しなくて良いと伝えている。

さらに、活動内容と次回開催について必ず配布しており、情報が共有できるように努めているため、回覧制は採用していない。情報が一方的にならない様に直接顔を見たコミュニケーションを大事にするため、SNSの活用は検討していない。なお、資料が手元に残り後でゆっくり確認できる方が良いと考えハンコを押すだけの回覧板も採用していない。

子供会も自治会の中にあるので、負担軽減を考えて運営は主に高齢者でおこなっているが、将来への経験として、総会の議長や、書記など半日（数時間）だけ役を体験してもらう形式を採用しており参加率は高い。（大木委員）

○ 最初に田村さんの発言で、地域の行事には積極的に参加されているお話があったが、現在活気のあるイベントなどあるか。（井坂会長）

○ 商店連合会について、当初200名近い会員数であったが、現在80名を下回っている。以前、商店街では、年末に店舗情報をJ:COMを通じて発信していた。

自治会でも若い方々の活動をJ:COM、エフエムさがみ、市広報など様々な媒体で発信するのはどうか。

役員をやりたくないという理由で脱退される方が一定数いると聞いている。

PTAにも携わったが負担が大きい活動だと感じた。

多くの活動に共通しているが、やりたい人がやれば良いというような温度差を感じる。

ゴミ捨て場については、組み立て移動式のもので持ち回りとして場所を変えながら運営している。市の推奨するコンクリートで囲って水道の完備した場所を設けることは困難である。

会議などで情報共有の場を定期的に設けないと、継承すべきことが途切れてしまうのではと危機感を感じている。（田村委員）

○ 個人的になるが私が自治会に入った理由はずっと単身赴任をしていて、会社をやめて戻ってきた時に、近所に知り合いがおらず、地域との関係を築くことを目的として加入した。

自治会でも役職を担うほか、サークル活動にも多数参加しており平日の午後は全て、活動の運営で埋まってしまうのが現状である。

加入メリットは積極的にアピールをしないが、防犯活動などを定期的に行っていることを伝えている。福祉活動についても、自治会の力は大きいと思う。災害時の要援護者の対応や、日常的に見守ってほしいと依頼された方の見守り活動も行っている。

防災に関しても、原則、自治会館は避難所に指定していないが、非常時に備えて解放できるように整えている。

このような活動を転入者にはパンフレットで渡しているため新規の加入率は高い。一方で転出者も多い地域のためプラスマイナス0で推移している。

地域として高齢化が進んでいると感じていることも事実としてある。（黒子委員）

○メリットという言葉が活動に馴染まないと考える一方でアンケートの回答にはワードとして多く出てきたため、あえてメリットという言葉を使うこともPR戦略の一つではないか。

活動の見える化についても、SNSを活用すれば一人でも多くの方に情報を届けられると考えられる一方で、対面によるコミュニケーションの良さも引き継げるような方策も考える必要がある。発信方法にはJ:COMさんに協力を仰ぐほか、現代はスマホ一つあればYouTubeに投稿できるような気軽な発信方法もある。

次回は、地域活動への参加ということで、本日の議題の延長になっていくかと思う。アンケートの回答をもとに意見交換ができればと思う。（井坂会長）

#### 4 その他

南市民ホールに関わる要望書について大木委員から共有が行われた。

次回の日程について、1月中の開催予定であると事務局から説明があった。

#### 5 閉会



## 相模原市南区区民会議委員名簿

(50音順・敬称略)

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	東 正充	相模原商工会議所		欠席
2	井坂 聡	相模女子大学	会長	出席
3	石森 寿幸	公募委員		出席
4	井部 弥生	公益財団法人 相模原市民文化財団		欠席
5	大木 恵	大野南地区まちづくり会議副会長		出席
6	金森 徹	公益財団法人 相模原・町田大学地域コンソーシアム (市民・大学交流センター)		欠席
7	草薙 喜義	相模原市社会福祉法人経営者協議会		出席
8	九嶋 俊彦	公益社団法人 相模原青年会議所		欠席
9	黒子 信雄	東林地区まちづくり会議		出席
10	佐田 昌史	相模原市民生委員児童委員協議会		出席
11	篠塚 実希子	相模台地区まちづくり会議		欠席
12	鈴木 貴市	相模原南交通安全協会		欠席
13	瀬尾 守一	相武台地区まちづくり会議		欠席
14	田中 美加	北里大学		出席
15	田村 小次郎	大野中地区まちづくり会議		出席
16	中島 勝平	麻溝地区まちづくり会議		欠席
17	中島 千尋	相模原市地区社会福祉協議会南区連絡会		出席
18	長瀬 徹	株式会社ジェイコム湘南・神奈川相模原・大和局		欠席
19	穂苅 健二	新磯地区まちづくり会議	副会長	出席
20	増本 敏康	公募委員		出席
21	安江 星那	南区若者参加プロジェクト実行委員会		欠席
22	横山 日南	さがまち学生 Club		出席
23	吉田 貴子	女子美術大学		欠席
24	渡辺 美帆	子育て親育ち応援団 With. cfc		出席
25	渡辺 幸雄	公募委員		出席